

刊行にあたって

本書は、兵庫県多可郡多可町加美区の岩座神地区を中心とする文化遺産の調査報告である。岩座神地区は、すぐれた棚田の景観をもつことで有名であるが、その奥には名刹である神光寺があり、古くより霊峰千ヶ峰への信仰の場として存在してきた。山寺とその膝下の集落という観点から、改めてこの地域を見直すことは、山寺と地域社会の関係という普遍的なテーマにとっても有効なケーススタディーになると考える。

岩座神地区におけるフィールドワークは、2022年に実施した京都府立大学文学部歴史学科の授業「文化遺産学フィールド実習」を契機とする。学生たちが事前学習をおこなったうえで、8月に現地でフィールドワークをおこなっている。この時点では、岩座神区長の木原伸夫氏にお世話になり、公民館での聞き取り調査と文書調査、五霊神社での聞き取り調査と測量調査、石造物調査、棚田の石垣調査など、複数の分野にわたる調査を同時に進めることができ、文化遺産学を構成する諸分野の調査を学生が体験する場として活用させていただいた。このときの調査成果を基礎としつつ、それぞれの分野の教員が中心になって、その後に繰り返し現地を訪れ、調査を重ねてきた。核になると考えられる旧神光寺跡への踏査も2023年3月に実施している。こうして得られた成果をとりまとめ、一書として刊行することにした。

調査にあたっては、多可町教育委員会のご協力を得ることができ、とりわけ安平勝利氏にはたいへんお世話になった。改めてお礼申し上げたい。

編 者